

災害対策の標準化に係る今後の方向性について (案)

災害対策に係る標準化の推進に当たり、以下の論点を中心に検討を行うてはどうか。

1. 「何を」標準化すべきか—検討対象

(検討のポイント例)

- 予防段階を含む災害に関する状況認識・情報の共有（国・都道府県・市町村）
- 災害対応のオペレーション・処理手順
- 災害時の組織間連携、防災に関する資源管理・マネジメント（地方公共団体間における応援・受援の在り方等）

2. 「どのように」標準化すべきか—推進方法

(検討のポイント例)

- 標準化としてオーソライズされたものを文書化・防災計画へ反映
- ガイドライン策定による標準処理手順の明確化
- 共通システムの構築による情報の共有
- 防災教育・訓練による人材育成
- こうした成果の普及による住民意識の醸成

3. 「いつまでに」標準化すべきか—実施期限

- 以上の検討対象及び推進方法について、メルクマールを意識していつまでに実施するか、また実施できるか

(メルクマールの例)

- ・ 2020年：東京オリンピック・パラリンピック
- ・ 2030年：東京オリンピック・パラリンピックから10年

※平成28年度中に1～2回程度（夏～秋頃）、ワーキンググループを開催し、これまでの検討や以上の論点を踏まえ、今後の災害対策の標準化に向けた中間整理を行う。